

授業科目名： 教育相談（初等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小山久子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教員が行う「教育相談」とは、学校教育のあらゆる機会を捉え、児童一人一人の教育上の問題に対して望ましい在り方について支援することであり、「学校教育相談」ともいう。管理職はもとより担任・養護教諭・教育相談担当・生徒指導担当等々が、自らの立場から「チーム学校」として対応することが望まれる。受講者には、教育相談に関する基本的な知識を修得し、教員として可能な教育相談とは何かを主体的に考え、実践意欲を養ってほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>児童一人一人の問題解決のため、（学校）教育相談の在り方、予防的対応の在り方について、事例研究を中心に展開する。</p> <p>また、学校教育の場で「人間尊重」の精神を有する教員として活動できるよう、ペア・グループ等の授業形態や体験的な活動を取り入れ、受講者一人一人のもの見方・感じ方・考え方が異なることを体得し、受講者どうしの理解を深める場を多く設定する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：（学校）教育相談とは何か、その意義と課題について考える ～生徒指導、学校教育相談、教育相談、それぞれの特徴を知り、教員としての在り方を考える～</p> <p>第2回：カウンセリングの理論と実際 ～カウンセリングに関する基本的な理論等について理解し、児童に対するカウンセリング的関わり のあり方（カウンセリングマインド）を理解する～</p> <p>第3回：児童・生徒の問題の理解と対応 ～児童・生徒のもつ「問題」とは何か、発達の視点や発生のメカニズムから捉え、 その対応や援助について考える～</p> <p>第4回：児童・生徒の精神医学的な基礎 ～精神医学における児童・思春期によく見られる具体的な問題の概要を知り、 臨床の領域と連携するセンスを養う～</p> <p>第5回：発達障害に対する理解と教育の場における対応の在り方 ～障害の特性を知ると共に、障害のある方、その保護者の声に耳を傾けると共に、発達段階や発達課題に 応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～</p> <p>第6回：不登校の理解と対応 ～不登校の状態像、一般的経過、要因と心理的メカニズムを知り、不登校児童・生徒への支援について 事例を通して検討する～</p> <p>第7回：いじめ問題の理解と対応① ～いじめの定義、典型例、その推移を理解し、発達段階や発達課題に応じた 教育相談の進め方を検討する～</p> <p>第8回：いじめ問題の理解と対応② ～第6回での学修を活かし、事例をもとにいじめ問題への対応について検討する～</p> <p>第9回：学級崩壊の理解と対応 ～学級崩壊の定義、原因と背景について理解し、回復に向けた取組みについて、事例を通して検討する～</p> <p>第10回：反社会的問題行動の理解と対応 ～「健全育成」の理念、行動科学としての非行理解、非行の心理的背景について理解し、 対応のあり方について検討する～</p> <p>第11回：神経症的問題の理解と対応 ～神経症的問題とは何か、その要因を理解し、対応のあり方について検討する～</p> <p>第12回：開発的カウンセリング ～学級経営に生かすカウンセリング（構成的エンカウンター・グループ、アサーション・ グループワーク等）について知る～</p> <p>第13回：保護者に対する援助 ～「家族」についての考えを深め、保護者や親子関係への援助における課題について検討する～</p> <p>第14回：校内での協力体制と他機関との連携 ～学校教育相談を効率的効果的に行うための協力体制の重要性と他機関との連携の必要性を 深く認識する～</p> <p>第15回：教員のメンタル・ヘルス ～教員が直面している困難における心理的意味を知り、自身として、上司・同僚として どうあるべきか考える～</p>			
テキスト：「学校教育相談」 一丸藤太郎他編著 （ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等：生徒指導提要 （文部科学省）			
学生に対する評価：レポート課題提出（2課題）及び最終課題提出（研究論文）			